

令和元(2019)年度

日本特別活動学会 第6回 実践事例募集事業

## 推 奨 実 践 事 例

事例番号 6-1

新設された学級活動(3)の実践における指導主事としての一考察

(沖縄県)浦添市立教育研究所

井崎 重(イギキ シゲル)

実践テーマ	新設された学級活動(3)の実践における 指導主事としての一考察
実践区分 〇囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 <u>その他</u> (学級活動(3)の実践における指導主事としてのかかわりについての考察)
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	<p>令和2年度より小学校で本格実施される次期学習指導要領において、特別活動は学級活動(3)が新設され、その実践の蓄積が待たれる所である。</p> <p>私が所属する浦添市立教育研究所では、令和元年度文部科学省指定研究「小学校における進路指導の在り方」に関する調査研究として、浦添市立小学校2校の共同研究を所管している。私は、指導主事として、両校の研究を「授業づくり」と「公開授業後の指導助言」という形で関わりをもつことができた。</p> <p>本実践事例は、この文部科学省指定研究の歩みを、指導主事の立場で支援する中で見えてきた実践の在り方の探究を振り返る試みである。指定両校は、この指定研究について、特別活動の中の特に新設の学級活動(3)を切り口にテーマにせまろうとしてきた。本実践事例は、まさにこれから本格実施される学級活動(3)の授業づくりについて、大きな示唆を与えることができるものとする。指導主事として、私自身が両校の教諭達と共に悩み、考え、学び合う中でイメージを具体化することができた。できる限り具体的な実践事例として提案できれば幸いである。</p>
実践の時期	令和元年 6月～令和2年 1月

## 【実践事例】

### 1. はじめに

令和2年度より小学校では次期学習指導要領が実施される。特別活動においては学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」が新設された。本実践事例は平成31年度文部科学省委託事業による2小学校の共同研究において行った学級活動(3)の授業づくりに関する支援の記録である。小学校段階でのキャリア教育をどうとらえ、その「要」としての学級活動(3)の授業づくりをどう構想するのかを両校の教諭と共に悩み、考え、学び合う中で見えてきたことをまとめたい。

委託事業名：平成31年度「小学校における進路指導の在り方に関する調査研究」

研究指定校：沖縄県浦添市立小学校2校（内間小学校・宮城小学校）

研究主題：学んだことを振り返りながら将来の生き方を考え行動できる児童の育成  
～多面的・多角的に自己理解を深める活動を通して～

### 2. 目的

- 新設された学級活動(3)における授業づくりのポイントを探る。
- 授業者との協働を通して、指導主事としての支援の在り方を振り返る。

### 3. 事例

#### (1) 事例1 授業の内容

所属	浦添市立内間小学校 6年3組 計32名 (令和元年11月25日5校時)	
題材	学習をレベルアップしよう！～何のために学習するの？～ 学級活動(3)ウ	
	学習過程	指導の実際
導入	①課題の把握  【つかむ】	→問：今の自分の学習について、振り返ってみよう。 〈アンケート結果から〉 宿題はしっかりやっている。しかし、夢や目標を意識して取り組んでいる人は少ない。 →今学習している教科が将来の夢につながっていると思いますか？ はい(30%)、いいえ(10%)、分からない(60%)。 → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて提示：将来の夢や目標に向けて、</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: block; text-align: center;">自分の学習の取り組み方について考えよう。</span>
展開前段	②可能性への気づき (原因の追究)  【さぐる】	→問：職業にはどんな力が必要だろうか？ 〈例〉警察官にはどんな力が必要だろうか？ 体力、運動神経。 →それはどんな教科で身に付くのかな？ 体育、部活動など。 グループで、警察官について必要な力について続きを考えた。(観察力、正義感、英語力、行動力、厳しさ等) →問：気づいたことはありますか？ →まとめ：学校でのすべての教科が大切！
展開後段	③解決方法等の話合い  【見つける】	→問：自分がなりたい職業で、どんな力が必要だろうか？また、どんな教科と関連するだろうか？ 女優、サッカー選手、ピアノ講師等。 →警察官の例にもとづいて、自分がなりたい職業について、必要となる力と関連する教科について考えた。 女優…表現力。説明力。体力。協調性。 サッカー選手…分析力。判断力。説明力。観察力。体力。想像力。

終末	④ 個人目標の意思決定 【決める】	→ <u>将来の夢や目標を実現するために今がんばりたいことを決めよう。</u> 女 優…中学生に向けて、家の手伝いができるようにしたい。また学習の両立もしていきたい。身の回りのこともしっかりやりたい。 サッカー選手…全教科がんばりたい。なぜなら必要な力がすべての教科とつながっていたから。
----	----------------------	--

(2) 事例2 授業の内容

所属	浦添市立宮城小学校 4年4組 計35名 (2019年12月4日5校時)	
題材	ピカピカそうじ大作戦～どうしてそうじをするのかな?～ 学級活動(3)イ	
	学習過程	指導の実際
導入	①課題の把握 【つかむ】	→ <u>今日は、なりたい自分になるための学習をしましょう。</u> (アンケート結果から) ①そうじは好きですか? YES…すっきりする。隅から隅まで。 No…きたない。めんどくさい。 ②そうじは大切だと思いますか? YES…気持ちよく過ごせるから。病気にならないように。 集中できるようになる。 →アンケート結果から、いつも一生けんめい取り組む児童を取り上げる。 →問： <u>どうしてここまでがんばれるのだろうか?</u> →もしかしたら、そうじにはこれまで挙げた良さ以外にも別の良さがあるのかもしれないね。 → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">めあて提示：そうじの良さを見つけて、</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 20px;">自分にできることを決めよう。</span>
展開前段	②可能性への気づき(原因の追究) 【さぐる】	→問： <u>そうじってどんな良さがあるだろう?</u> きれいになる(気持ちよくなる)。協力できる。すっきりする(みんなも自分も)。 →そうじのプロにも聞いてみよう。(ホテルのそうじ係)動画視聴。 【感想】協力している。励まし合っている。最後までやり遂げることが大切。仲間と協力して大変なところに取り組む。達成感…がんばってそうじをしたから。自分の手できれいにしたから。一生けんめいの時。成功した時。 →問： <u>そうじのプロは、どうして「めんどくさい」と言わないのかな?</u> 「ありがとう」と言われるのがうれしいから。がんばっていたらいいことがあるから。一人でできないことをみんなで作っているから。
展開後段	③解決方法等の話し合い 【見つける】	→「 <u>なりたい自分</u> 」になるために、 <u>自分ができるそうじなことを見つけよう。</u> →個人で考え、グループで検討した。その後、共有のための発表会。 →協力する。役割分担する。助け合う。 →問： <u>もう少し具体的な姿で現してみよう。</u> コミュニケーション…やる気が出る言葉、励ます言葉、例えば「がんばっているね」「一緒にやろう」
終末	④個人目標の意思決定 【決める】	→「 <u>なりたい自分</u> 」になるために <u>できることを決めよう。</u> 私(ぼく)は、「 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;"></span> 」な自分になりたい。 そのためにそうじ時には「 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;"></span> 」する。 →隅々まで残さず一生けん命取り組む。 協力し、コミュニケーションが高い自分になりたい。 →教師の励ましの言葉と本時の学習の振り返り。

#### 4. 支援の在り方を振り返る(考察)

教材研究および授業構想の際は、指定両校の同学年の教諭がともに集まって意見を交わし合い、授業を互いに公開し、授業研究を深め合ってきた。ここで挙げた事例は両校で互いに練り合っって作り上げた実践である。

授業構想については「つかむ一さぐる一見つける一決める」の4段で学習過程を構想していくこと、本時の授業および事前事後の活動を通して児童が身に付けたい資質・能力をキャリア教育の基礎的・汎用的能力と結びつけることを確認した。数回の公開授業を終えた後、さらに授業構想しやすいデザインシートの必要性を感じ、学級活動(3)に関する「授業づくりデザインシート」を作成し、活用することにした。

さて、4段の学習過程を構想する時に最も重要なことは「何をつかみ、何をさぐり、何を見つけ、何を決めるのか？」について、主語を児童生徒として明確にすることである。ではどの場面を最も山場とするべきであろうか？事例を通して見えてきたことは、学級活動(3)においては「児童が、何をさぐるのか？」こそ最も本質に迫る場面だということである。事例1においては「さぐる」場面で「職業にはどんな力が必要だろうか？」と問いかけることで職業と現在学んでいることとのつながりについて「さぐって」いる。事例3では「そうじってどんな良さがあるだろう？」と活動の良い面について考え、さらにそうじのプロ(ホテルの清掃担当)の働きを動画で視聴し、その感想を述べ合っている。そして児童が清掃活動において感じる「めんどくさい」という感情と向き合えるように、「そうじのプロはどうしてめんどくさいと言わないのかな？」と投げかけている。

このように、2つの事例において「さぐる」場面で「何をさぐるか」はかなり異なっている。同時に外部講師等の扱い方も異なる。私は、実践の積み重ねの中で「さぐる」場面において最も重要なことは、「児童自身がその活動について自分の今の在り方を深く振り返り、再認識し、その時の思いや願いも含めて自己理解を深めていく」ことであるということに気づかされた。キャリア教育の要としての特別活動としても学級活動(3)の意義としても、児童生徒が自らの「今」を見つめ、掘り下げながら自己理解を深める営みこそが中核であるといえよう。自己理解を深めるからこそ未来の「なりたい自分」が自然と立ち上がってくるということなのである。だからこそ「さぐる」の次の段階として「見つける」において自分の目指す「自己像」に照らした行動が明確となり、自己理解を基盤して他者と交流することで共感的な関わりや助言が可能となるのであろう。外部講師等についても、自己を振り返り、見つめる過程においてそれを促進するような役割、今の自分を映す鏡としての位置づけを意識する必要がある。このように考えると、事例2では児童から出された「めんどくさい」という意識を自覚化させ、そういう自分の思いとそうじのプロとの比較がなされ、児童が「自分の今」を足場に「なりたい自分」を立ち上げて行動を見つけようとしていた。ただ今後は「さぐる」場面においてもっと児童生徒にとって明示的に、一人一人の自己理解を掘り下げられるような問いや設定をしていく必要があるだろう。